

消費税率引上げ後の消費動向等 について（7月第4週）

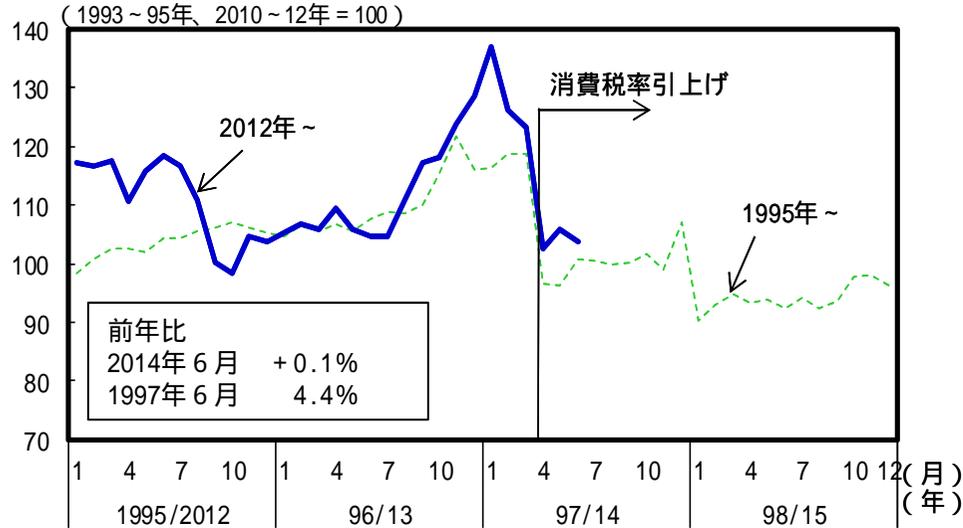
平成26年8月1日

内閣府

自動車・家電販売の動向

自動車販売は、6月は前年比でほぼ変わらずとなった。また、受注台数の前年比マイナス幅は、おおむね横ばい。

新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



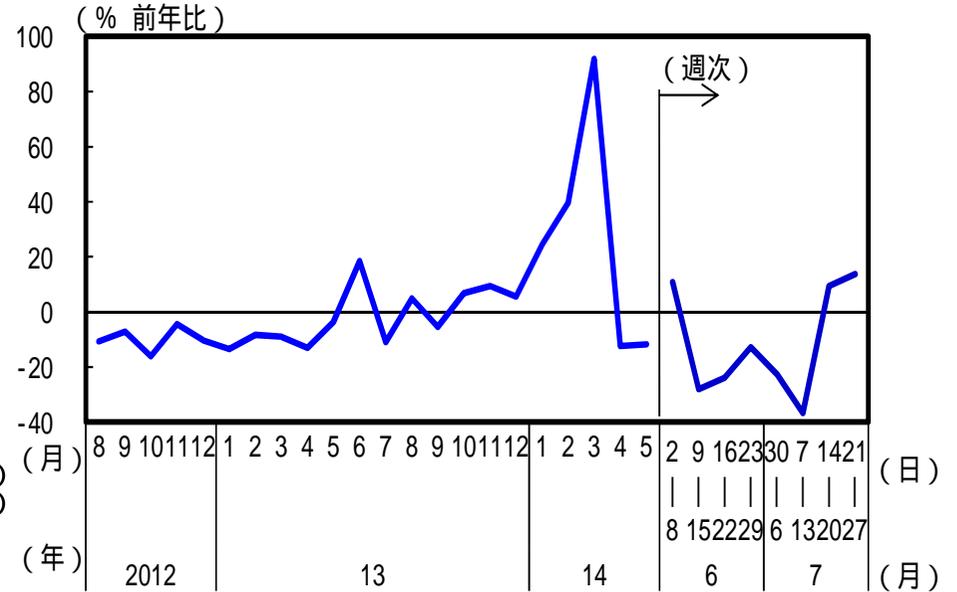
(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

自動車販売台数（除軽、登録ベース）は、7月第4週は、一部に新型車登場の影響もあって、前年比マイナス幅が縮小している。少しずつ改善はみられるものの、もう暫くは前年比割れが続きそうな状況。【業界団体A】

軽自動車販売台数（届出ベース）は、先週に引き続き前年比マイナスで推移している。昨年同時期が新型車の影響で好調だったことが要因と考えられるが、月末の動向にも注意する必要がある。【業界団体B】

主要5品目の家電販売は、7月第4週は、昨年に比べ気温が高かったことから、引き続きプラスとなった。天候要因が売上増に寄与しつつ、全体として反動減からほぼ持ち直している、との声も聞かれた。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜）



(備考) 1. GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により内閣府作成。
2. テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。
3. 7月第4週は、祝日の影響を取り除くため、7月14日～27日の2週間の前年比を算出している。

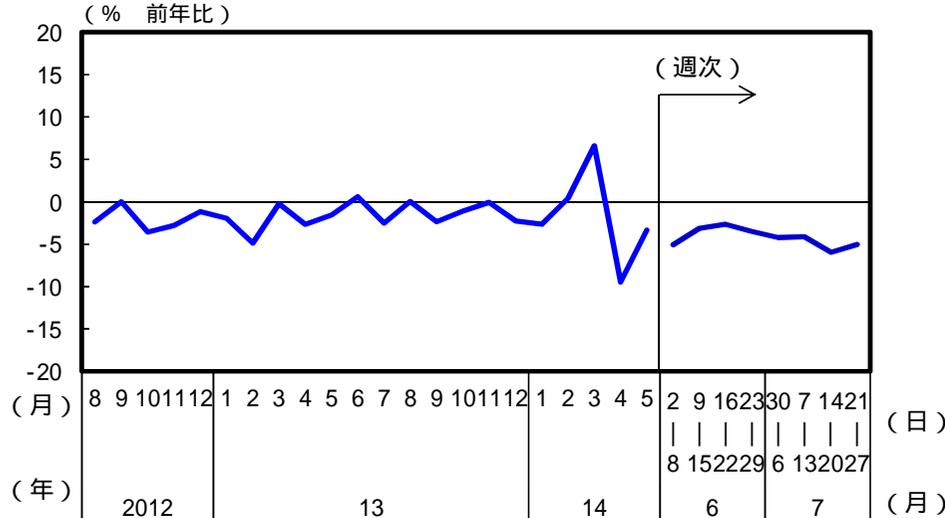
7月第4週は、昨年と比べ気温が高かったことから、前年比で引き続きプラスとなった。エアコンの売り上げのピークが前年より遅れていることもプラスに寄与した。天候要因が売上増に寄与しつつ、全体として反動減から持ち直してきている。【市場アナリスト】

7月第4週は、昨年に比べ気温が高かったこともあり、エアコン・冷蔵庫が前年比で増加。これらが大きく寄与し、全体でも前年比でプラスとなった。【家電量販店】

飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、スーパーは、7月第4週では、天候要因もあって先週からマイナス幅が小幅に改善。反動減から持ち直している、との声も聞かれる。

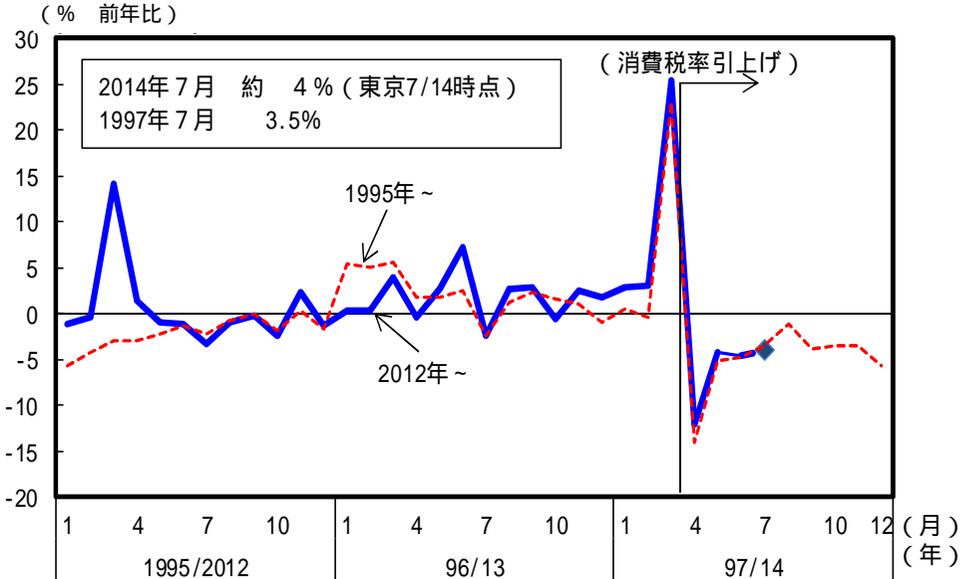
飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）（税抜）



(備考) 1. KSP（全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計）により作成。
 2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。
 3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。
 4. 7月第4週は、祝日の影響を取り除くため、7月14日～27日の2週間の前年比を算出している。
 また、7月21日～27日のデータは、速報値。

大手百貨店の7月第4週の売上高は前週と変わらず。セールの状況で各社の売上状況に差が出ている可能性あり。定価商品や家具等が戻ってきているとの声もある。

百貨店売上高（税抜、既存店ベース）



(備考) 日本百貨店協会等により作成。2014年7月の値は東京7/14日時点の速報値。

7月第4週の売上の前年比は前週から微増。今週は天候が良く、夏物商材が軒並み売り上げ好調だった。最近の売上は、主に天候に左右されていることもあり、反動減からは持ち直している、と認識している。 【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、7月以降も堅調に推移するものとみられる。外食は、消費税率引上げの影響は軽微であり、7月第4週も引き続き堅調との声も。

週末の悪天候などの要因で、売上高前年比はマイナスとなったが、新商品や高価格帯商品の販売は、引き続き堅調に推移している。 【外食チェーン】

7月第4週の売上前年比は微減。第3週がセール第2弾の初日を含み、かつ夏物定価商品の販促を行ったので、その反動の可能性もある。第4週のセールの売上は前年比マイナスだが、定価商品は前年並み程度。

【百貨店A】

7月第4週の売上前年比は、先週とほぼ同じ。気温が高い日が続いていることで、夏物衣料の売行きが好調。セールも前年を上回る売行き。先月まで低調だった高額商品や家具なども戻ってきている感触。

【百貨店B】